

公益財団法人ポエック里海財団

## 令和3年度 事業報告書

(令和3年12月1日から令和4年11月30日)

当財団は、ポエック株式会社がCSRの一環として平成20年から取り組んでいる小佐木島の再生プロジェクト事業（小鷺島バイオアイル計画）を発端とし、広く瀬戸内海の里海の再生及び保護を目指し、不特定多数の者の利益の増進を目的としたものを実施する事業体として、前身である一般財団法人ポエック里海財団が平成23年12月に設立した。

当財団は、「持続可能な経済の実現にむけて、私たちが育む自然環境、歴史、文化の保護に貢献するとともに、広く一般に瀬戸内海の里海文化への理解と関心を芸術的観点から醸成し、環境再生の研究への助成と人材育成を行うことで社会に貢献する」ことを目的に掲げている。

以下、令和3年度に実現した実施事業の概要について報告する。

財団の中心となる事業は、「離島再生事業（小鷺島バイオアイル計画）」、「里海の環境を保護する人材育成事業」、「情報公開・普及事業」であり、当財団令和3年度期の活動実績としては、下記のとおりである。

### 1. 植樹活動、清掃活動

令和4年4月9日（土）にボランティア活動として、総勢92名で桜街道再生植樹、清掃ボランティア活動を実施した。

本活動は、限界集落化した小佐木島において、古民家・耕作放棄地の再生及び島外からの桜並木再生植樹・清掃ボランティア、里海文化に触れる島内ウォーキングを通して、里海文化の振興活動を実施することにより、島外からの人の誘致及び島民との交流による地域活性化を目指すことを目的としている。

本年度の植樹祭は、新型コロナウイルス感染症の状況を加味し、マスクの着用、検温の実施等、体調管理を徹底した上で実施。また、財団のホームページを使った参加者の公募は実施をせず、当日は桜の苗25本、杏子の苗5本を植樹した。植樹活動と並行して、海岸に流れ着いているゴミの回収活動を実施し、海岸の景観保護に務めた。

小佐木島をより美しく、また多くの方に知っていただけるよう、植樹活動は、今後も継続しておこなっていく方針である。

### 2. 財団設立10周年史の製作

前年度財団設立10周年を記念して、これまでの活動を記録として残すため、10周年史の製作を開始した。現在製作中で2023年3月を目途に完成の予定となっている。これま

での小佐木島での活動と今後の展開を記し、小佐木島をより多くの方に知っていただけるよう、書籍として残す予定である。

### 3. 新たな文化芸術担当及び里海環境保護担当の募集

当財団の学芸員として、約6年間小佐木島で文化芸術担当及び里海環境保護担当を担っていた寺川氏の退職に伴い、新たな文化芸術担当及び里海環境保護担当の募集を行った。広く一般公募を行った結果、尾身大輔氏を新たな学芸員として迎えることとなった。同氏は木彫を専門とする芸術家で、瀬戸内国際芸術祭へ2度の出展実績を持つ若手芸術家である。今後小佐木島を舞台として、製作活動を継続して行っていく予定となっていることから、当財団としては、人材育成事業として尾身氏への積極的なサポートを継続して行っていく予定である。